えぽつく

第20巻1号通刊101号
2019年1月1日発行

合資会社金井書店発行
営業本部編集
〒161-0033 東京都新宿区下落合3丁目20番2号
TEL 03-5996-2888 FAX 03-3953-7851
URL https://www.kosho.co.jp E-mail office@kanaishoten.jp

禅 譲

新年おめでとうございます。

旧年中のご愛顧を感謝申し上げますとともに、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

今上天皇（第125代天皇）の禅譲、5月1日から皇太子徳仁親王が受禅し、新元号とともに新しい時代が始まります。象徴天皇として、一つの時代を残した平成、戦争のない時代であったことに安堵されていましたが、このことは一人一人が噛みしめるべきことでしょう。戦争体験のある人びとが二度と経験したくないと、小さな積み重ねをして“平和”を維持してきてくれました。しかし、残念なことに、戦争体験者が減少してきた今日、微妙に空気が変わってきているかなと感じる人が増えているのではないでしょうか。安堵の裏に、危惧していると感じた方もいるかもしれません。日本と言うより世界のバランスに変化があるのでしょう。

微妙な変化、いや大きな変化があった“書物の世界”の将来を想像できる方はいらっしゃいますか？“故きを温ねて新しきを知る”温故知新は死語になったのでしょうか？単に、紙媒体(書物や雑誌など)からデジタルに移行しただけでしょうか。

この一年、昭和時代の出版物に対する需要減が顕著であったと感じています。平成時代も30年となると当然なことかもしれません。新しいか稀少性か、この両極端に属する書物に需要があり、中間にある大半の書物は必要とされなくなっているのです。箱入りハードカバーの全集より文庫版の全集の方が売価が上廻る時代ですから時代も変わったものです。

神保町の古書店街の風景も変わってきました。靖国通り沿いに行列のできる飲食店やサラリーマン向けのお店などが増えてきました。大手町から神保町、お茶の水に向かってオフィス街が拡がってきていますので、学生街の雰囲気が薄まるくらいにオフィス化するのでしょう。古書店も店舗販売からネット販売へとシフトしていき、古書店巡りもバーチャルの世界に変わるかもしれません。

書棚に並んだ本の背中を眺めて、気になる本を手に取って、パラパラめくる。こんな本もあるのだと、初めて知る瞬間。店舗に出向かなくても、パソコンで、スマホで可能になるのでしょう。自動車の完全な自動運転が現実的な今日、単なる夢物語ではないでしょう。

この世から紙媒体の本や雑誌が無くなることはあり得ないと確信するのですが、書物も禅譲する時代が訪れるのかなとフッと思うことがあります。幸いなことに、歴史を刻んだ書物たちが皆さまの手元にたくさんありますから、今年もときめきの出逢いを求めて奔走する所存です。相変わりませずご愛顧いただきたくよろしくお願い申し上げます。

金井書店　花井敏夫

古書市での出会い

東京のデパートから古書展が少なくなって久しいように思います。現在定期的に開催されているのは、1月銀座松屋での「銀座古書の市」、8月東急東横店「渋谷大古本市」くらいでしょう。かつては新宿駅周辺だけでも、伊勢丹、京王、小田急とそれぞれが開催していたものです。余談ですが、私と当金井書店さんはかれこれ二十余年のお付き合いになりますが、それも最初の出会いは店舗ではなく「伊勢丹大古本市」を通じてでした。

もちろん、現在でも多くの古書市が古書会館等で開催されていますが、デパートの古書展の良い所は、何といっても立地の良さからの立ち寄りやすさでしょう。用事のついでにふらっと立ち寄れる気軽さがあります。また、その際に発行される冊子状の目録も魅力的でした。全国各地から出展している古書店の個性豊かな品揃え、写真版も多く眺めているだけでも楽しくなるもので、その時期になると届くのが待ち遠しいものでした。もちろん会場に足を運んだ際には、忘れずに封筒を持参して次回も送ってくれるようにと願ったものです。そういえば、小田急百貨店の目録は、入り口の受付嬢の方に申し出ていただいた事もありました。

古書の入手も、今では「日本の古本屋」や「Amazon」をはじめとしたインターネットでの取り引きも多くなりましたが、自分が探している本がはっきりしている場合にはこの上なく便利なツールであることは間違いありません。かつて熱望している本を探すため、神保町と早稲田の古書店をしらみつぶしに足を棒にして探し回っても見つからなかった事がありますが、今から20年ほど前にそのシステムを知って真っ先に探したところ一発で発見して驚愕したのをよく覚えています。

ですが、今でも古書展や古書店に大いに魅力を感じるのは、自分がまだまだ知らない本が世の中にはたくさんあるからです。日焼けして変色した背表紙を目で追っているうちに、向こうから飛び込んできたような体験を何度か味わってしまうと、何かがあるだろうと期待してしまうのです。先にあげたデパート開催の古書展でも、まず手ぶらで帰った事はなく、それどころかその後は入手できないような本と出合った事もしばしばです。

古書店に行った事のある方ならお分かりと思いますが、ああいった場所は一種独特の雰囲気があります。デパート展ではそれ程ではありませんが、気難しそうな人々がじっと無言で本を眺め、興味がありそうなものを手に取っているのです。内容はもちろん、装丁やコンディション、値段もじっくりと見定めています。もちろん私もなんどもくり返ししてきた事です。それはその場限りかと思っていたのですが、実はそうでもないのです。そんななか、ふとした体験がありました。

本好きな人であれば、時間があるときに古書店を見かければ新たな出会いを求めて立ち寄りたくなるものです。それが旅先であれば尚の事です。今から10年ほど前の事ですが、青森市に所要があり、なかなか行く機会もないだろうとついでに弘前市まで足を延ばしました。弘前は桜の名所の弘前城が有名ですが、かつて陸軍師団が置かれた地でもあり、明治から昭和初期に建てられた近代建築も数多く存在しています。良い機会であったので、駅前でレンタルサイクルを借りて市内の建物巡りをしました。旧第八師団長官舎、旧弘前市立図書館、旧東奥義塾外人教師館などなど。実際に内部も見学できる建物も多く、駆け足ではありましたがその造作美を見惚れていました。そして、現在は青森銀行記念館として公開されている明治37年竣工の旧第五十九銀行本店本館は最も楽しみにしていた建築です。地図を頼りに行ってみると、ふとそのわきに古書店を見つけました。皆さんもご経験あるかとおもいますが、旅先での楽しみのひとつに古本屋めぐりもあります。青森銀行記念館を堪能してから、早速その古書店に入りました。

店内は細長く、壁の両脇と中央の本棚にぎっしりと本が詰まっています。一見して「茶色い本」、すなわち新古書ではなく年輪を感じる本が多いと感じます。そして実際に、青森県内の郷土史や民族を初め、弘前ならではの良質な人文書が蓄積された古書店であることはすぐに分かりました。当然、いくつか関心を惹く本があったので、手に取ってぱらぱらと読んでみます。気になるのは、内容と共に本の値段です。古書店ではだいたい奥付のあたりに値段が記してありますが、それを見た時にどこかで見覚えを感じました。少し考えて、思い出せました。そうです、京王百貨店新宿店で開催される「東西老舗大古書市」に出店している古本屋さんだったのです。正直、看板も良く見ずに店に入りましたが、戦前から弘前で古書店を営んでいる成田書店さんでした。何度か目録で注文したり、あるいは会場で手に取って近現代史に関わる書籍などを買い求めた事があったのです。いや、記憶が古書の値札からよみがえるとは不思議なものです。会計の時に奥様に東京で何度か買い物したことがあると申すと、喜んでくださいました。まだ当時は古書市が開催されていましたので、次回開催の際に懐かしく成田書店のコーナーで本を眺めていると名札を付けたご主人がおられたので、つい弘前の店にお邪魔したことがあると挨拶してしまいました。偶然弘前の店を訪ねたと申すと、突然話しかけてしまったにもかかわらず丁寧に応対していただきました。

そして今年の春に久しぶりに弘前を再訪しましたが、成田書店さんは以前と変わらずに営業していました。今回もご主人はお留守で奥様が店番をされていましたが、本の充実ぶりは相変わらずです。いくつか買わせていただきました。もちろん、値札も以前とそのまま変わっていません。支払いの時にまたも以前の京王展で買い物させていただいていましたと申すと、以前と変わらぬ笑顔で応えていただきました。

旅と古書店。自分では初めての本屋さんだと思っても、実は東京にはいろいろな機会があるものです。とはいえ、全くとはいわずもふと入った本屋さんにご縁があるのに驚くのと同時に、本好きにとっての醍醐味のようなものも感じた体験でした。まだこれから旅した際にも、新たな出会いを求めて古書店巡りは続くことでしょう。あなたにも、素敵な出会いは必ず待っていると思います。

(S.H)

成田書店さんは日本古書通信2018年8月号「東北の古本屋(4)」にて、青森県&秋田県の古書店さんとともに紹介されています。他号に東北の他県の古書店も紹介されています。
【購読問い合わせ先】
日本古書通信社 TEL 03-3292-0508
URL https://kosho.co.jp/kotsu/

古本浪漫洲

開催中の情報
https://www.kosho.co.jp/furuhon_romansu/
Twitter @furuhon_romansu
会場直通電話 090−5996−3994(会期中のみ)
主催◆金井書店

Part 1　1月9(水)〜1月11日(金) 古本うさぎ書林・中央書房・藤井書店・林書店
Part 2　1月12日(土)〜1月14日(月) 古本うさぎ書林・文省堂書店・弘南堂書店・金井書店
Part 3　1月15日(火)〜1月17日(木) 新日本書籍・球陽書房・弘南堂書店・由縁堂書店
Part 4　1月18日(金)〜1月20日(日) 林書店・坪井書店・がらんどう・金井書店
Part 5　1月21日(月)〜1月23日(水) 全品1冊につき３００円均一(税込み)

新宿サブナード 東京都新宿区歌舞伎町1-2-2 TEL03-3354-6111 http://www.subnade.co.jp